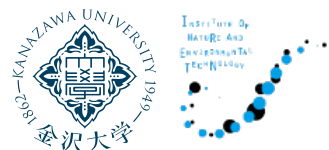


市民講演会

主催：金沢大学環日本海域環境研究センター

主催：金沢大学能登海洋水産センター



能登海洋水産センターと環日本海域環境研究センターとの共同研究「持続可能な社会環境の達成に向けた海洋研究」
令和4年度法人主導(トップダウン)型研究課題「環境・健康に配慮した持続可能な共創的養殖システムの開発」

医学と水産学

8/6(土)

17:00-18:35 (16:30より入室可)

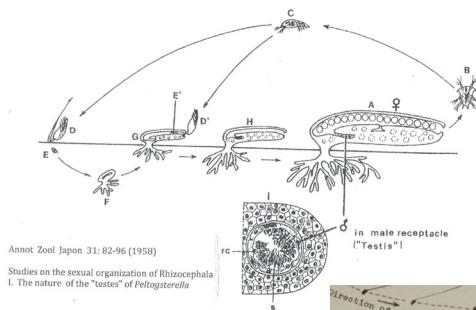
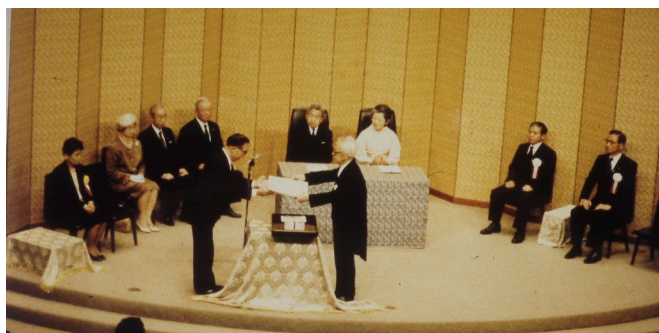
金沢大学理工研究域 能登海洋水産センターより **オンライン配信**

基調講演：柳町 隆造氏 (ハワイ大学名誉教授・金沢大学客員教授)

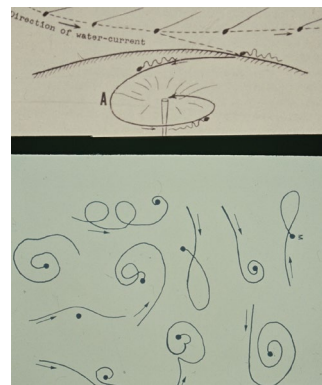
事前登録：下記URLまたはQRコードより参加登録をお願いします。(定員300名)

<https://kanazawa-university.zoom.us/meeting/register/tZckfuypqTkiE9w-DRq4MThjMP5rrcv4HXic>

※登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。当日まで大切に保管してください。
(登録締切：8月6日12:00)



Annot Zool Japon 31: 82-96 (1958)
Studies on the sexual organization of Rhizocephala
I. The nature of the "testes" of Pelostegrella



【プログラム】

17:00-17:05 学長挨拶

金沢大学 学長 和田隆志

17:05-17:15 概要説明

金沢大学 環日本海域環境研究センター 副センター長 鈴木信雄

金沢大学 理工研究域 能登海洋水産センター センター長 松原創

17:15-18:30 **基調講演**

“What I did and what I learned My research career and advice to young fellows”

ハワイ大学 名誉教授 / 金沢大学 客員教授 柳町 隆造

18:30-18:35 閉会挨拶

金沢大学 環日本海域環境研究センター長 長尾誠也

お問い合わせ 金沢大学 理工研究域 能登海洋水産センター

Tel : 0768 (74) 1080

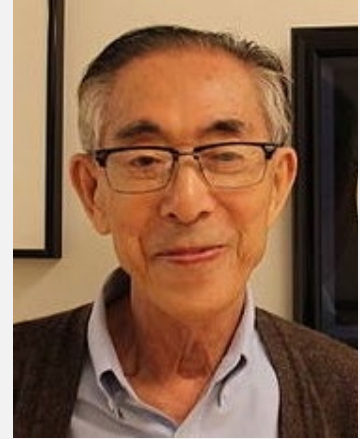
〈基調講演 演者紹介〉

ハワイ大学 医学部 名誉教授・金沢大学 客員教授

柳町 隆造 氏

〈略歴〉

- 1928年 北海道生まれ。
- 1952年 北海道大学理学部動物学科卒業。
- 1960年 米国Worcester実験生物学研究所研究員。
- 1966年 ハワイ大学医学部助教授、准教授。
- 1974年 同教授。
- 1996年 国際生物学賞受賞。
- 1994年 Marshall Medal受賞。
- 1998年 Distinguished Andrologist Award受賞。
- 1999年 Carl G. Hartman Award受賞。
- 2001年 全米科学アカデミー会員に選出。
- 2006年 ハワイ大学医学部名誉教授。
- 2020年 金沢大学客員教授。



能登海洋水産センター



2019年、日本百景に選ばれた石川県能登町九十九湾を臨む越坂地区に、金沢大学理工学域生命理工学類海洋生物資源コースの拠点として、金沢大学理工学域能登海洋水産センターが発足した。能登町により整備された敷地面積6,822㎡の本センターは、4350㎡（床面積1044㎡）3階建の実験棟と5193㎡（床面積1241㎡）3階建の宿泊棟からなる。対岸の金沢大学環日本海域センター臨海実験施設では海洋水産生物の環境に対する影響を主として調査しているが、本センターは水産生物に焦点を当て、それらの増養殖研究を行う。能登町や石川県の特性を生かした水棲生物の生殖・発生・成長に関する基礎・応用研究を世界に発信、オーガニック養殖や生殖工学を駆使した次世代養殖技術の開発などを通じて、地域ひいては国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。

金沢大学理工学域能登海洋水産センター
〒927-0552 石川県鳳珠郡能登町字越坂11-4-1

環日本海域環境研究センター 臨海実験施設



能登半島の西岸を外浦、東岸（富山湾側）を内浦と呼ぶ。その内浦の中央やや北寄りに九十九湾がある。九十九湾の入り江の一つ、通称「船隠し」に当臨海実験施設が建てられている。九十九湾は湾口の幅約200m、最大奥行き1,200 m、水深25 mの典型的な溺れ谷で荒天でも湾内に波浪を見ない。実験施設周辺は国定公園に、湾口は海中公園に指定されている。九十九湾を中心に南北50 kmに渡る海岸線は、砂泥・礫・岩礁地帯と変化に富んでいる。

生物相は日本海を北上する対馬暖流の支流と富山湾の固有冷水域の影響を受け、南方系と北方系の両種が見られる。また、当施設の前の水深10 mには、口や肛門、消化管が無い「マシコヒゲムシ」（有鬚動物門より環形動物門へ変更）が生息する。磯採集に適した数カ所のポイントと、ドレッジに適した底質が異なるポイントがあり、臨海実習に適した環境といえる。

環日本海域環境研究センター 臨海実験施設
〒927-0553 鳳珠郡能登町小木ム4-1